京城日報
朝刊　夕刊　本日朝夕刊共六頁

マレー戦線

海鷲、曉の大爆撃行
星港・わが巨彈に炎上
敵軍事施設を猛爆

大本營海軍部發表（五日午後四時五分）＝帝國海軍航空部隊は一日夜半および三日黎明大擧シンガポールを空襲し、同軍港、テンガ飛行場、センバワン飛行場など敵主要軍事施設を爆撃し四ケ所以上に大火災を生ぜしめたり

遂に孤立無援
星港放送

ブエノスアイレス特電【四日發】四日シンガポールのラジオは海、陸、空よりの日本軍の不斷の猛攻によりシンガポールは遂に孤立狀態に陷つた旨の悲壯な放送をなし、こゝ一週間以内に有力なるイギリス海、空、陸軍の救援なき限り遂にその運命は絶望に陷るであらうと叫び續けた、なほその際特にシンガポールの食糧難を訴へ印度からの食糧補給路は日本海軍及び航空隊の有効なる活躍によつて殆ど遮斷され、シンガポールの食糧は既に憂慮すべき狀態にある旨を强調した

日本軍、星港へ
第二次總進撃
英當局確認

ブエノスアイレス特電【四日發】シンガポール來電によれば日本軍は東海岸においてクワンタンのイギリス軍防衛陣地を突破、また西部海岸においてはセランゴール州に突入の態勢を示し一路シンガポール攻略を目指して南下進撃中であるが、日本軍增援部隊により西部海岸における日本軍の威力は著るしく增大しつゝあり、イギリス軍當局も日本軍の進撃が最近とみに進捗してゐる事實を確認、日本軍はシンガポールに到する第二次總進撃を續けつゝある旨を指摘した

マレー要衝〇〇
重大危機
英機關撤退開始

ブエノスアイレス特電【四日發】ロンドン來電によればペラー州におけるイギリス軍は三日夜總崩れとなり南方に敗走しつゝあり一方ペラー州を突破してセランゴール州内深く突入した日本軍は機械化部隊を先頭に空軍と緊密な連絡のもとに猛進撃を續けつゝあり、これがため要衝〇〇は既に重大危機に直面するに至つたものゝ如く同市の軍政各機關は早くも撤退を開始したと傳へられる

けふ帝都を蔽ふ
五百の鵬翼
海鷲堂々の分列式

【横須賀電話】大東亞戰爭第一年輝く戰捷の新春を壽ぐわが海鷲部隊の雄姿、壯觀極まりなき空中分列式は六日戸塚道太郎海軍中將總指揮のもとに擧行、羽田東京空港上空で平田横須賀鎭守府司令長官の閲兵を受け五百餘機を延ゆる海鷲の大編隊は堂々帝都の空を壓して大東亞戰爭下揺ぎなきわが海鷲の武威を中外に宣揚する

この日上野敬三少將指揮の第一集團ならびに平田直敏大佐指揮の第二集團、合せて約五百機は午前九時十五分總指揮官機を先頭に〇〇航空隊上空で編隊を整へ、同九時廿五分進發、堂々の鵬翼陣を張つて一路羽田東京飛行場に向ひ同三十一分到着、直ちに空中分列式を開始、藤田飛行場長以下の幕僚を從へて臨場の平田司令長官の閲閲を受け、終つてこれら編隊は銀翼を連ね東京上空を經て千葉縣習志野に向ひ第一集團は左に轉じ埼玉縣川口市から大東京の北側新宿上空をかすめて横濱に向ひ三浦半島を通過してそれぞれの基地に歸還する、右のうち艦爆機隊は同十時再び羽田飛行場に雄姿を現し壯烈果敢な特殊高等飛行の妙技を展開する

マレー戦線疾風枯葉を捲く皇軍の大進撃　タイピン入城後さらに進撃する機械化部隊（陸軍省檢閲濟）

ボルネオ戦線

ブルネイ及び
ラブアン島占領

大本營陸軍部發表（五日午後六時十分）＝英領ボルネオ上陸の帝國陸軍部隊は舊臘二十一日ブルネイを、また一日ブルネイ灣口を扼するラブアン島を占領せり

皇軍要衝〇〇に上陸

【リスボン四日同盟】日本軍は英領ボルネオの重要地點に相ついで上陸、すでに中部のミリ、セリヤ、ルトンにつぎ西部クチン一帶を確保したが四日シンガポール來電によればさらに三日要衝〇〇に上陸した

無抵抗降伏
英、嚴戒下のブルネイ

【東京電話】ブルネイはセリヤの西北百キロにあつてブルネイ州の要地で人口は一萬二千、ブルネイ州唯一の近代都市である、市内には約三百名の巡警隊を常駐してゐた、巡警隊は英人士官を隊長としてこれに住民および印度人士官をもつて補ひ訓練してゐたが、皇軍占領に際しては皇軍の威風に恐れて降伏し、わが軍は無血占領を行つた、ブルネイ港は船底十二フイート以下の船舶ならば最低潮位の時を除き何時でも入港可能で、北ボルネオ優秀の良港である、ラブアン島はブルネイ灣港にあつて水上飛行機基地としての設備をもつてゐるほか香港、シンガポールに對する海底電線の連絡中繼所として重要地を占め警戒嚴重を極めてゐた地點である

南　支　那　海　北ボルネオ　サンダカン　ラブアン　ブルネイ　セレベス海　サラワク（領）　ボルネオ島（英）（領）（蘭）

米、パナマ防備に狂奔

ブエノスアイレス特電【三日發】日本軍のマニラ占領により西太平洋におけるアメリカ海軍の基地は全く失はれることになり、アメリカの生命線パナマ運河も今や日本海軍の直接脅威を受けることとなつたが、ワシントン電によればアメリカ官邊はマニラ失陷後慌てゝパナマ運河の防衛を强化すると共にパナマに國境を接するコロンビヤをして中南米諸國に對しパナマ運河防衛に協力すべきことを勸告せしめたといはれる

敵性勢力を一掃
上海租界市參事會改組

【上海五日同盟】皇軍租界進駐後注目されてゐたが五日に至り日本當局の要求によりリベル議長以下左の四名は辭任することゝなつた

參事會議長　ベジー・エッチ・リベル（イギリス）
同會員　アル・ジエー・マクマレーン（アメリカ）
同會員　アール・ユー・ボロック（イギリス）
同會員　シー・ジエー・シセーブ（オランダ）

なほ來る七日開催の市參事會において之に伴ふ善後措置が協議されるが、英米側からの後任補充は行はれず右四名の辭任によつて敵性國勢力は名實ともに一掃された

南米抱込みに奸策
米愈よ毒牙を磨く

【リスボン四日同盟】ワシントン來電によれば米國務省は四日午後聲明を發表、反樞軸軍事同盟に對し未參加諸國の加入を慫慂した一方米國政府は汎米外相會議の切迫を機會に右工作を積極化するものと見られるが、南米諸國よりの情報によれば米國は經濟協定殊に農產物買取契約を好餌として盛んな策動を試み、これら情報を綜合するに米國は南米諸國を出來るだけ多數反樞軸軍事同盟に誘引し、追加調印國たらしめる方針だがそれが不可能の國々に關しては對日國交斷絶、經濟斷絶、在留樞軸國人監禁などをせまり對米好意中立へ引付けようと策動してゐる模樣である

しかし南米諸大國がかゝる策動に對し明瞭な難色を示してゐることは既に判明してをり、たとへ經濟的利益供與のため若干の讓步を認めるとしても決して徹底的反樞軸態度を好んでゐるものでないことは明白である、これに對し米國側の謀略宣傳は最近猛烈を極め、たとへばマニラ陷落をもつてラテン都市のとこちつけたり、ラングーン空爆をもつて非戰鬪員盲爆として人種的反感挑發につとめてゐるが、他方日本軍の赫々たる戰果は米側急報の割引にも拘らず可成りつよく南米諸國を印象づけつゝあり、米國自身の國威を失墜せしめてゐる結果、汎米主義の推進に對する反撥は著しく暴來淮となりつゝある感がある

外相會議にハル米國務長官が出馬せず、ウエルズ次官を派遣すること

重慶、醜狀を暴露す
香港陷落めぐる米、英、蔣の確執

【東京電話】香港陷落をめぐつて英、米、重慶三者の醜い責任擦り合ひは再三暴露したが、今度は重慶政府部内では親英米派と軍事當局との間で泥試合が始まつてゐると五日某所に入電したところによると事の始まりは英米當局の重慶に戰に應じなかつた罪によつて處置に處分しろと要求したのに對し親英米派の宋子文もまたその尻馬に乗つて英米側の主張擁護の電報を寄せたものだ、これに對し余漢謀は重慶軍事委員會に對し『香港陷落は全然英國側の過謬と機宜を失した結果であり、當時連絡の方法もつかなかつた有樣なのにどうして共同作戰など出來よう、然もあの呆氣ない陷落振りたるや、いかに重慶軍が東奔西走しようとも手の施しやうがないではないか』と逆捻的讒謗を與へた、何とも滑稽な話だが斷末魔の重慶が相も變らず英、米の一喝で內輪もめしてゐるなどは敵ながらきまりのわるい惡態だ

小癪な敵一機
忽ち遁走
比島の斷末魔

【比島〇〇基地五日同盟】わが航空部隊によつて一擧のもとに潰滅された比島空軍は殘存敵機四、五機に過ぎず驟ら敗走の敵輸送船掩護に當つてゐるが、四日敵戰鬪機一機は小癪にも前後二回にわたつて〇〇爆に來襲し來つたが、わが地上砲火の猛射を浴びて遁走した

随想　必勝の春に寄す
聖光
田村浩

逆巻く大波濤が洋上の島々に押し寄せて來た。島人はおそれおのゝき、最後まで木によぢり神に祈つた。

破壞の鐵槌は鍛れ、地上のすべてを根こそぎ呑んでしまつた。やがて曙朗な旭光が再びこの島を照した。とは、私が或る日『颱風』といふ南洋の嵐の映畫を觀た印象であつた。

百年といふ永い時と人と金の力を惜みなく費して榮華の限りを極めた、米英の飽くなき東亞民族の奴隷的支配は、この映畫のやうに瞬間にして消え失せてしまつたといふべき、まことに儚き榮華と誇りの夢であり、みじめな終りといはねばならぬ。

しかし、一擊によつて、百年を深い夢と消え去らしめた皇國の『この一擊』こそ二千六百年かゝつたのである。萬世一系の天皇を現人神と崇め奉る皇祖皇宗ノ神靈上ニアリ』と宣し給ふ八紘一宇の御稜威は世界をあまねく輝かす聖光として仰がれる。

感激の春は皇土を擧げての歴史的就業だ。大詔に『皇祖皇宗ノ神靈上ニアリ』と宣め、萬世不易の國體の精華として、うけ繼いだ血汐と生命力の神通である、二千六百二年のわが歴史の重疊たる力の賜と信ずべきである。

この百曲難く天災地異は天に反し神に背く惡しきものゝ惡しき業に對する刃である。『天に代つて不義を討つ』皇國日本の使命は貴くして神々しい。神國日本の大東亞建設こそ皇國の保全と東亞諸民族永遠の繁榮にある。根こそぎ洗ひ淸めて新しい島の建設が使命だ。滿洲事變以來、破壞と建設の二刀を使つてこゝに十年、

はせ給ふ。まことに勿體なく有難い。皇國守護のために生命をさゝげて眠る幾萬の神、また嚴寒烈暑の氷野に、ジャングルの中の熱風の中に生命を擲げて、はるかに祖國日本のお正月に思ひを馳せらす勇士に心からお禮を念じたい。

異國で迎へるお正月が涙に映るやうである。ゴム園やバナナや棕櫚の大樹の蔭で椰子の水にパインナップルマンゴースチンなどの芳しい果物料理で酒も餅もスルメもなしで流れる汗をふきつゝ、南國の新春迎春を謳つてゐるけなげな勇士の姿は貴い。

或は春から用意もでき、餅つきに大童でお酒もかち栗も、赤飯の小豆もゆたかに家娘や子どもたちが流行日本歌の『丘を越えて』『父よあなたは强かつた』など日本の旋律のうちになごやかな異國情景もあるにちがひない。

―香港では、晴れの入場式がすんだ四日目の元日―『第三國人ノ生命財産ハ保護ス』といふ温い情の皇軍布告で、避難民は日章旗を仰いで支那迎春の本然の姿にかへつてわが兵隊さんたちと祝つたであらう。十八日の總攻擊からわづか十日ばかり。歷史的偉業は神業である。二千六百年間戰へた力でマニラもシンガポールも、神の命ずる逆巻く大波濤のやうに根こそぎ淸められる日も近い。かくして皇國の聖光は大東亞に世界にあまねく輝くのである。

（筆者は朝鮮商議理事、經濟學博士）

平和產業の軍需轉換
＝米英首脳が協議＝

【リスボン四日同盟】米英兩國首脳は長期戰の對策として軍需生產擴充に躍起となつてゐるが、ワシントン來電によればルーズヴェルト大統領はチャーチル首相は四日ホワイト・ハウスにビーヴァーブルック英軍需相、ウオーレス副大統領、クヌードセン國防生產管理局長官、ネルソン國防優先調當局長官などの生產關係者を集めて軍需生產擴張促進策につき協議を遂げた、同會議では米國の平和產業を軍需產業に轉換して武器生產の擴充をはかることが主要議題とされた模樣で、散會後クヌードゼン國防生產管理局長官は次のごとく語つた

米國はまづ第一に自國の平和產業の全施設を戰時工業に振り向けねばならぬし、第二に現存軍需工場は一週百六十時間制を採用し相互に契約を分け合つて生產擴張に全力を盡さねばならぬ、さらに纖維、食糧その他の工業も軍需品生產に轉換する必要があらう、いづれ近く各產業代表者を招致協議することゝならう

肺患者に急告…
無料送呈いたします。

…まちがつた治療法の爲あたら人生を失ふ肺病ロクマク患者よ、早く正しい肺患征服の道によつて治しませう。お醫者樣の金言を基とした全快指導書『治療の原理』と薬草療法、光明のあなたへの二冊の本を、寺から皆様への贈呈としてお送りいたします。これらそうで今スグ『京城日報で見た』と書いて左記へハガキをお出しなさい。そして早くこの方法により擲ひを治して幸ひの光明にかゞやく日を迎へて下さい。

お送り下さい……。
大阪市　功徳山　徳林寺

重慶、戰區長官會議招集

【南京五日同盟】當地に達した情報によれば蔣介石は來る十日重慶に各戰區司令長官を招集して軍事會議を開催、例の反攻計畫ならびに各戰區における整軍、軍制の改革に關し協議するといはれる、この軍事會議は大東亞戰爭勃發後の非常

けふ定例閣議

【東京電話】政府は六日午前首相官邸に定例閣議を開いて去る卅一日および二日の閣議に引續き今議會提出法案の要綱を決定するはずであるが、審議未了の場合は七日臨時閣議を續開して全法案の要綱を決定する

しかして今議會提出法案はさきに閣議決定を行つた七十三件のほか增稅關係法案を加へて合計八十件に上る豫定であるが、法案の速かなる成立を期してゐる政府は全法案の修文整理を急いで來る十五日の閣議に一括して附議上奏御裁可を仰いだうへ直ちに貴衆兩院に提出する方針である、これに對して貴衆兩院も政府提出豫算案ならびに法律案は急速に成立せしめる方針で臨んでゐるので法律案提出を待つて調査會を開き事前審議を行ふ他國務大臣において取纏め代表質問で濟ませる方法を考慮してゐるから議會の會期は最少限に短縮されることにならう

ビスマーク群島爆擊

【リスボン四日同盟】メルボルンよりの報道によれば日本爆擊機隊は四日英領ニューギニヤのビスマーク群島上空に現れ晴天飛行を行つたのち、正午および午後一時の二回にわたりラボール飛行場及びその周辺陣地を爆擊し飛行場設備を破壞した、日本軍飛行機のビスマーク群島空襲はこれで二回目である

ニューギニヤ　ビスマーク群島　オーストラリア

運命既につく
米比軍の抵抗も無駄
米側自認す

【リスボン五日同盟】ワシントン來電によれば首都マニラの防衛を拋棄して北方に遁走した米比軍はバタアン半島ならびにコレヒドール島に集結最後の一戰を試みる方針といはれるが、米國側でもマツカーサー將軍麾下の敗殘軍はこれまでの戰鬪で疲勞困憊してゐるうへ、これに代るべき新たな軍勢なく空軍勢力は全滅してゐるので、日本軍の猛攻を支へ得る見込みはない旨を自認してゐる、米國側がもつとも恐れてゐるのはマニラ灣が日本側の海軍基地となることでこれを防止するため、コレヒドール島ならびにバタアン半島を死守せんとしてゐるのであるが、米比軍の敗殘狀態では全比島の運命もすでに決したといふのが消息筋の觀測である

敵艦艇一隻を擊沈
帝國海軍、布哇諸島を攻擊

大本營海軍部發表（五日午後四時十分）＝帝國海軍艦艇は舊臘三十一日ヒロ港（ハワイ島）カフルイ港（マウイ島）およびナウイリウイリ港（カウアイ島）を急襲攻擊し各港主要軍事施設を破壞炎上せしめたり、なほ本攻擊においてヒロ港に横付け中の敵艦艇一隻を擊破せり

コレヒドール猛爆

大本營海軍部發表（五日午後四時十分）比島方面帝國海軍航空部隊は全力をもつて一日以來連日にわたりコレヒドール島要塞、オロンガポ要港およびマロロス飛行基地などに對し猛烈な攻擊を反復し殘敵の殲滅に努めつゝあり

大詔奉戴日の行事
今月は各種聯盟のみで行ひ 來月から一般に執行

[illegible]國民常會など今月はすべて[illegible]式は來月から執行することと[illegible]聯盟のみ詔書奉讀式を行ふ[illegible]月は各自中で[illegible]時間として二[illegible]

爆彈は全彈命中
―今度來る時は入場式だ― バタアン半島機上偵察記

[illegible]は山野を覆ひつくして記者の[illegible]は何物も見えない、[illegible]飛行[illegible]ふと〇〇分、雲はやうやくと[illegible]はじめた『マニラ方面は曠天[illegible]込み』と富樫中尉は爆音に遮られつゝ大きな聲で呶鳴つてくれた、マニラを見なくてなるものか[illegible]に降り閉ぢ込められた二日間のうらみをはらさなくてはならない、富樫中尉は氣象通報にとても忙しい

マニラ灣が突然眼下にぽつかりと現れた、機首を轉じてバタアン半島を眞西に横斷し虱潰しに敵掃蕩を開始、舟艇をもつて遁走せんとする敗敵を求めて半島を南へ西へ、東へ再び西へ縦横に飛翔した、二十九日來のわが猛爆[illegible]兵舍、無電塔などすつかりふつ飛んであとかたさへなく一つ二つ、三つ、四つ、大型輸送船がぴつたりと島に横付けになつてゐる『畜生どんなに逃げようとしたつて海には海軍あり後にはわが地上部隊主力が背前に迫つてゐるのだ、素早く手をあげるのがお前たちのためなのだ』半島突端のマリヴエレスにも大型船、小船總計廿隻に近い敵輸送船が碇泊してゐる

爆彈を積んでをりさへすれば片つぱしからお見舞申すのだが、けふは偵察と一發の爆彈も持合せがない[illegible]輸送船十數隻、陸上ではマリヴエレス、リマイ間に大砲[illegible]、デナルピアン間に自動車約四十輛、敵が必死となつて最後の逃走に血まみれになつてゐる

突然雲のかたはらから味方の〇〇機が現れてマリヴエレス爆撃態勢をとつた、撃ち出す敵の高射砲は滅茶苦茶に彈幕を張つてゐるが編隊からはかなり遠い、爆彈は全彈命中だ、山麓にある敵の火藥庫に一彈が命中し、火焰が天に冲せんばかりに吹き上る、兵舍は木ツ端微塵にふつ飛んでゐる、マリヴエレスからコレヒドール島要塞に輸送船が二隻わが爆撃に慌てふためいて懸命に逃走しはじめた

敵の周章狼狽ぶりは手にとるやうに見える、記者は自分の危險を忘れてじつとその光景を見守り〃戰爭だ、これが本當の戰爭の姿だ〃と思つた、敵も味方も血みどろになつて戰つてゐる、全生命をかけて互に一生懸命に戰つてゐるのだ

機が急に高度を下げたかと思ふと眞つ青な海のかたはらに放射狀の道路が縦横に走る、マニラの市街が突然眼の前に現れた、眞つ白な大統領官邸、それを取圍む綠の芝生、玩具のやうな白や赤の屋根が整然と並んでゐる、街路には人も自動車も通つてゐない、市内を流れるパシック河に大型汽船二隻が沈沒してゐる、市中は二日進入したわが軍によつて掃蕩工作が行はれてゐるのであらう、一昨日まで燃えつづけた市街中心部の火事も消えてゐた、わが偵察機はマニラ市街を大きく一周して機首を轉じた『さやうならマニラの街よ、今度來る時は入城式だぞ』

【寫眞＝御紋章燦と輝く元旦の香港を睥睨する軍艦＝海軍省檢閲濟】

陸鷲が語る比島爆擊（上）

[illegible]深めて遙なる故郷の正月を思ひな[illegible]陷落の模樣を聞くことを得た、以[illegible]

空一杯、敵高射砲彈

[illegible]時の空襲でバギオのジョン・ヘー飛行場[illegible]がばッと濛々と煙いて火の手が上つた時は[illegible]軍施設はほとんど吹き飛ばしたのです[illegible]の飛行場地で更には比島の要人はじめ軍[illegible]基地だけに相當手剛い對空攻擊と敵機[illegible]どうしたのか反擊がなく敵機の影も見え[illegible]りただけにわれわれ戰鬪機部隊としては[illegible]りの奇襲にまつたく眼玉を拔かれたんだ[illegible]の陽り海戰の大艦隊と會つたときは實に[illegible]實に嬉しかつた、實に何か魂が入り込ん

で戰友同志が「おーやつてきたぞ！」と呼び合つてゐるやうだつた

河本准尉 白雲の中を旭光を浴びた荒鷲の翼がつらなつてきた時は、思はず獨りで萬歳をやつたよ！

北澤中尉 久保中尉は爆擊の時何か認めてゐたなあ、えーと『日米開戰第一日、若鷲の身をもつて參加し得る光榮、謹つて國に殉じ皇國の繁榮を祈り奉る、御兩親樣、決して殘る心なく戰死の時は笑つて靖國へ下さい、御武運を祈り申上げます』だつたかなあ

弘中中尉 生きて還るとは思はなかつた、全く武運はわれにありだつた

河本准尉 夕陽に翼を輝かせて一機、二機、三機と一機も洩れずに基地に舞ひ戻つた時は嬉しかつた、地上勤務員は空を仰いでわッと歡聲を擧げるし、中には感極つて泣いてゐた者があつた

久保中尉 八日のバギオ爆擊に引續きイバ新設基地をはじめ、十一日のタルラク、カバナツアン、クラークフィールドなど各飛行場の爆擊も痛快だつたが、廿九日のコレヒドール島要塞の爆擊は胸がすいたなあ！

黒崎中尉 あの時の爆擊は自分達は〇隊の先頭だつたが自動車が續々と島の中を走つてゐるのが見えた、敵は全く不意を衝かれたらしく、はじめは全然高射砲も射出してこなかつた

弘中中尉 島の中央に要塞司令部が見えたね眞白の「コの字型」のビルで燒すには勿體ないやうな建物だつたが、氣持のよいほど片ツ端から跡形もなく吹き飛ばしてやつた

北澤中尉 爆彈を落して還らうとした時、鳴りをひそめてゐた高射砲が先づ林の中から一齊に火の玉を吹いて來た、〇〇米の高度から本當に大きな火の玉に見えたから相當大きな彈に違ひない、一發位は喰ふのではないかと心配したが、やつと切り拔けて振り返つて見ると、黒い彈幕が空一面に覆うてゐた

河本准尉 空一面が高射砲の煙に包まれて大變なものでした、三百發もきたかな

福田軍曹 五百發位あつたでせう、重慶や蘭州の爆擊で相當鍛つた玉を避くした私も、あの攻擊振りには少々驚きました

河本准尉 上から見るとお玉杓子のやうな形の小さい島だが、よくあれだけ堅固な要塞を構築したものですね

北澤准尉 小ジブラルタルと呼稱してゐたたけあるね、島の眞ん中に司令部を中心に兵舍が並んで、南北には多數の高射砲陣地、島の周圍をぐるつと重砲で固めてゐるんだ、しかし要塞司令部が紅蓮の焰を上げて燃えてゐたのは痛快だつた

奥軍曹 島とマニラの中間を敵の驅逐艦が逃げ廻つてゐましたね

黒崎中尉 島の西南方の沖合にも三、四隻の軍艦が全速力で走り廻つてゐた

奥軍曹 あの時ですね、久保中尉殿が破片彈を尾翼に五發受けられたのは！

久保中尉 さうなんだ、あの要塞には丁度マッカーサーがゐた筈だが

河本准尉 やられたか、負傷したかでせう、あれだけ〇キロの巨彈を叩き込まれては奴さんもたまらないでせう

福田軍曹 海軍が散々やつつけたサンフエルナンドの防禦陣地も可成りのものだつたが、十二日爆擊したデル・カルメンも物凄かつた

北澤中尉 十三日のクラークフィールドは敵さんもかなり頑張つて來たが、氣持のよい程叩きつけた 大型五機、小型二十機の爆擊機とカーチスＰ四〇型戰鬪機など…

久保中尉 次ぎから次ぎにどし〳〵やられるので敵さんまつたく手も足も出ず、戰鬪機など時々現はれるかと思ふと一寸のところで逃げ出す始末、全く張り合ひなしさ

福田軍曹 重慶や蘭州などでは時々挑戰してくるものもあつたが、今度は本當に一機も反擊してこない、もつとも支那と違つて高射砲だけは無闇矢鱈にうつてきたが

奥軍曹 實際敵は逃げ足が早いね

河本中尉 ヴイガンの敵前上陸の時、敵が御自慢の空の要塞といふ奴が〇〇船に向つて爆擊を加へてゐるので追ひかけたが、とう〳〵逃がしてしまつたのは殘念だつた

黒田中尉 戰鬪機でをる時だけは戰ひをいどんでくるが編隊となるとすぐ逃げるんだ

國民學校 ― 教育研究講習會
きのふから三日間開く

昨年四月一日から實施された國民學校令により從來の敎育方針は全面的に研究改善さるべき點が多くなつたので、京畿道學務課の慫慂により昨年五月より京畿道内の國民學校では敎員の資質向上及び國民學校敎育の指導徹底をはかるため郡、府單位の敎科研究機關を作り敎科研究講習會を開催してゐたが、その綜合的研究發表をするため五日午前九時から國民學校敎育研究講習會を京城中學校講堂で開催、道内から男女敎員千名が集つた

講習會は五、六、七の三日間開かれその間東京文理大敎授由良哲次氏、總督府島田編輯課長の講演及び道内より選ばれた國民學校敎員卅二名が具體的な敎育方針の研究發表をする

この講習會は今回の結果を見て將來もたびたび開催されるはずであるが第二國民の敎育改善が叫ばれてゐる折柄その成果は注目される【寫眞＝講習會】

元氣で歌はう
『米英擊滅の歌』成る

〃勝つたぞ日本斷じて勝つたぞ、米英今こそ殲滅だ、太平洋の敵陣營は、根こそぎ崩れて聲もなし〃見たか、聞いたか〃勝つたぞ日本〃――開戰劈頭の眞珠灣の戰果はどうだ、英國東洋主力艦は全滅だ、一世紀の罪業を重ねた香港も陷ちた、皇軍は各地に破竹の進擊を續け、上陸以來廿三日目には早くもマニラを占領し、英東亞攻略の最據點シンガポールも近い、の陷落だが建設はこれからだ、戰捷に醉うてはいけない、然し東亞十億の民族の感激は熱火となつて我々は勝利を祝ひ、皇軍に感謝しよう、そして元氣で歌はう…と國民總力聯盟宣傳部では來るべきシンガポール陷落の大捷、旗行列、提灯行列等盛り上る一億國民の感激と旺盛なる士氣を昂揚すべき大行進歌の製作を企圖してゐたが、この程その歌が文化部參事田中初夫氏の作詞、同文化委員大場勇之助氏の作曲によつて出來上つた、〃勝つたぞ日本〃―さあ歌はう、米英擊滅の歌が出來た、街頭に、職場に、決戰半島の感激の血を高鳴らせよう、總力聯盟ではこれを推薦歌として大いに普及宣傳することになつたが、近くＤＫのマイクを通じ全鮮へ歌唱指導する筈であるが、歌詞及び樂譜購入用の方は二錢切手封入、京城府米倉町國民總力聯盟宣傳部宛申込まれたしと

勝つたぞ日本
米英擊滅の歌
田中初夫 作詞
大場勇之助 作曲

（一）勝つたぞ日本斷じて勝つたぞ
米英今こそ殲滅だ
太平洋の敵陣營は
根こそぎ崩れて聲もなし

（二）東亞の侵略傲慢非道
今打懲らすこの勝利
驕心皇軍も限りがあるぞ
開け勝鬨の雄叫びを

（三）宣戰詔勅一度下り
電擊凄し海陸空
猛烈無比の爆擊機は
敵艦敵機を粉碎殲

（四）無敵皇軍正義の前進
必勝阻むものありや
遮る敵は斷乎と擊破
太平洋を制覇した

（五）八紘一宇の御稜威の下に
燦然輝く日章旗
我等一億總力擧げて
築くぞ東亞共榮圏

（六）勝つぞ勝つのだ斷じて勝つぞ
米英落つたこの意氣で
世界の歴史を書き改める
世紀の夜明けだ萬歳だ

勝つたぞ日本（米英擊滅の歌）　田中初夫 作詞・大場勇之助 作曲

勅題「連峰雲」寫眞展
けふから京城三越で開催

世界維新の大いなる氣宇を象徴する勅題〃連峰雲〃の新聞寫眞は本紙新年號を飾るため廣く讀者から募集、數多の傑作のうちから推薦一、特選三、入選三十點を得、雄渾の氣みなぎる推薦越智龜吉氏の作品はじめ特選作品は本紙の新年號を飾つたが、本社ではこれら全部の作品を蒐め六日から十一日までの六日間京城三越四階ホールで〃勅題連峰雲寫眞作品展〃を開催する、戰果を衝いて何れも高峰に聳ち、苦心になるこれらの作は觀る者の胸を搏つものがある

佛印からゴム毬の贈物
前線の兵隊さんから國民校へ

佛印の兵隊さんから樂しいゴム毬の贈物が輝かしい戰勝の春、銃後半島の全國民學校へ屆きます―昨夏、皇軍が大東亞共榮圏確立の大きい使命のもと佛印へ平和進駐した意義を日本の可愛い國民學校生に理解して貰つて强く正しく育つていたゞかうと、陸軍省、海軍省、文部省、厚生省と相談した商工省では佛印から輸入したゴムの一部をさいてこれを全國の國民學校生用のゴム毬に製造して贈ることとなり、朝鮮にもありがたいこのゴムの贈物が總督府學務課を通してこのほどとゞき、早速朝鮮運動具配給會社で配給にとりかかり、遲くとも春の三月には國民學校生の手に入ることとなつた

大東亞建設のため命を捧げてお國に奉公する兵隊さんの有難さがこもつたこのゴム毬は男子用が二インチ四分の一、女子用が四インチの大きさで、十萬個が銃後に花咲く春には半島の全國民學校の運動場に力强く彈け躍つて第二國民たちを明るく嬉しく鍛へさすはずである

お年玉を献金

京城鍾路町愛國班第四區内の靑葉國民學校四年生權正直君（一三）外八名のヨイコドモ達は昨夏子供隣組を結成、大人も顏負けの働きぶりを示して來たが開戰以來相次ぐ勝報に日本の子供の血を沸かし兵隊さん達は正月でも休まず一生懸命お國のために戰つてゐられるのに自分達は何の不安もなくお餅を戴けるのはほんとに勿體ないことだと國防献金を申合せ、お正月のお小遣ひのうちから學用品を買つた殘りを出し合せた金五圓二十六錢を仲良く九人が五日午後龍山署へ持參献金方を依頼し係官を感激させた

東京・リスボン間
けふから直通無電開始

【東京電話】昨年末來交渉中であつたわが國とポルトガルとの直通無電は今回遞信省とポルトガルマルコニー無線會社の間に協定成立六日から東京、リスボン間に直通無線電信の連絡が開始されることになり五日午後その旨遞信省より發表された、世界動亂の最中歐洲に中立を堅持するポルトガルの首都リスボンは現在もつとも有力な世界通信網の中心點であり大東亞戰爭勃發以來頓にその重要性を加へて來てわが國の對外通信網にリスボンが入つたことは意義深い、なほこの直通無電は差當りわが國とポルトガル間の電報のみを取扱ひ料金は一般用一語二圓四十錢である

マニラ陷落に感激して献金

京城漢江通六朝鮮技榮パーム組合京城製綱部工場の職員、職工さん達は米東亞侵略の牙城マニラ陷落に感激『我々の敬意を表したい』と献金方を申合せ

急特題話

☆…元日から三日までの朝鮮神宮參拜者の數は總計十七萬六千四百九十三名で昨年よりは四千六十三名多く、これらの赤子が入れた賽錢は三日間で二千六百六十圓四十八錢で昨年よりは二千六十一圓四十八錢多い

☆…この現れた數字の上の赤誠はいづれも大東亞戰の前線將士に捧げた銃後國民の眞心だが、ここに一寸困つたことは參拜者の中で無意識に神前で御行儀の惡い人がまだ時折見掛けられるといふ

☆…第二鳥居を過ぎても平氣で喫煙してゐたり痰を吐いたり洋裝のお孃さんや制服の女學生がうつかり靴下を直したり……サア思ひ當つた方があつたら今年からは一切氣をつけませうね、と神宮衛士所では語つてゐる

永井仁川府尹

【仁川電話】仁川府尹永井照雄氏は豫て腦溢血に罹り廿日以來自宅で療養中急性肺炎を併發し四日午後六時急逝した 氏は昭和八年八月着任以來大仁川建設に獻身的努力を捧げた恩人として七日午後二時から府公會堂にて府民葬を執行することになつた 同氏は五十五歲の働き盛りで今回の急逝は一般府民から痛く惜しまれてゐる【寫眞＝故永井照雄氏】

古井戸に惨死體

二日朝京城府新設町鐘紡工場裏の古井戸に水汲みに來たオモニーが竹籠に詰められた男の惨死體を發見交番に屆出た、所轄京城東大門署では殺人事件として松尾司法主任指揮の下に全刑事を動員、被害者の身元を調べた結果京城府昌信町四五三鄭山仲賈商鄭仁錫さん（三七）と判明した 同署では直ちに被害者の事業及び友人關係をたぐつて犯人嚴探中

京城城東署
十日頃店開き

伸びる大京城の銃後治安に備へて昨年十月から新廳舍建築中であつた京城城東警察署は第一期工事として武道場が十二月竣工したのでいよ〳〵十日ごろから武道場を假事務所に開署することゝなつた 同署には警視署長一名、警部三名、警部補五名、巡査百卅一名が近く任命される、之によつて京城東大門署をはじめ本町署、龍山署管轄の一部が新警察署に移管される

[illegible]たところ、立ちどころに三十圓が集つたので五日島校伊之吉さんが代表して龍山署に出頭、献金方を申出た

朝鮮總督府々尹兼朝鮮總督府事務官正五位勳五等永井照雄儀病氣の處養生不相叶一月四日午後六時十五分卒去致候就ては來る一月七日午後二時仁川公會堂に於て神式に依り仁川府葬を以て葬儀相營み候間此段御通知申上候
追て 御供物の儀は御辭退申上候
昭和十七年一月四日
嗣子 永井□夫
親族總代 堤 房治
故永井府尹葬儀委員長 松本 清

マレー戰線千二百キロ

英人指揮官を殺し印度兵が投降

到る所殘骸を曝す敵戰車

ジャングルと濁流を突破

【マレー前線〇〇五日同盟】わがマレー作戰部隊はジャングルを突破、濁流を渡りひたすらシンガポール目指して猛進中であるが、記者は第一線前線基地〇〇を出發、皇軍疾風の進撃に追随すべくマレー戰線千二百キロを突破し、皇軍第一線に追ひつくことを得た、以下は〇〇基地よりマレー戰線最前線に至る千二百キロ戰線突破記である

〇〇から國境線を通過するいはゆる國境防衛陣地にジットラを中心に構築したジットラ・ラインにマレー防衛の運命を賭けてゐたのである。マレー領に入るや跡方もなく破壊された橋梁は既に我軍の手で立派な軍橋が架設されてゐる、戰火を避けて避難したこの地一帯の住民は日の丸の小旗を手にして列を作って復歸してゐる、國境から廿キロばかり進むと道路の西側に英軍のトラック、輕戰車が腹を出して轉がってゐる、ジットラ・ラインに差しかゝると道路からゴム林の奥にかけて一面ところ狭きまでに敵の遺棄兵器が散亂し

英軍 敗走の生々しい跡をとゞめてゐる、敵はこのジットラ・ラインに第十一師團を主力とする有力な機甲部隊を配備しわが進攻を少くとも三ケ月間は持ちこたへると豪語してゐたが八日國境を突破した、わが軍は十一日未明ジットラ、ラインに殺到し戰闘十二時間この日薄暮には早くも縱深十キロにわたる敵陣地を完全に蹂躙しこれを突破したのである

記者はジットラ・ラインの中心陣地に車を止めて英軍の血にぬれたこの新戰場を視た、敵陣地は數條の鐵條網に圍まれゴム林を縫って數線の壕が掘りめぐらされ、みるからに堅固な抵抗線である

敵は 道路上に機械化部隊を配して鐵桶の陣を張ってゐたがわが指身の強襲に一と溜りもなく崩壊し、全線をあげてわが蹂躙に委ねるに至ったものだ、記者の視た敵のトラック戰車のみにしても百數十、火砲十數門、遺棄彈藥類は山ほど積まれてゐたジットラ・ラインからさらに二百四十キロ北部ケダー州の要衝アロルスターに至る間、随所に敵の小抵抗の跡が見られ、戰車、トラックが惨めな殘骸を晒してゐる、アロルスター飛行場はわが急進に破壊する暇もない一部兵舎を焼いたのみで夥しいガソリンや格納庫の敵機はいづれも

無傷 でわが手中に歸した英人指揮官を殺して投降した印度兵はわが軍に協力してケダー州の治安維持に當ってゐる、アロルスターから南下すれば至るところ橋は爆破されてゐる、道路の兩側にはゴム林とジャングルとが殆ど相半ばし、附近の住民は殆ど避難してをり、いづれも愛相よく道を教へて呉れる、南部ケダー州の中心都市スンゲイ、パタニ市街は同地の攻撃に際し若干の戰禍を被ったが、今はすつかり復興してをり、全ケダー州はわが占領下にあり、ケダー、ペラ州境を突破しスンゲイ、パタニから

更に 一百五十キロばかり前進すると道路兩側は物凄いジャングルで濁流に架せられた大橋梁がつゞいて二ケ所爆破されてゐる英軍はこの魔の地帯を利してわが破竹の進撃を阻まんとしたが、無敵皇軍は鰐の棲む渦まく水流を泳ぎ渡り敵の背後をつきこれを潰亂せしめ、シンガポール軍當局をして『英軍は日本軍の敵にあらず』と長嘆せしめたのは實にこの一線である、陣地の四圍には炎上した敵戰車が横はり英人兵の遺棄死體も散見された

毛唐は弱くて困る

鬱蒼 たる原始林に挾まれた路上に皇軍の雄姿を發見した蜿蜒とどこまでも續く隊列の大縱隊がシンガポール目指して一路進軍をつゞけてゐるのだ、記者は未だかつてこの瞬間ほど強く感激を覺えたことがない、自動車から飛び降りるや兵隊の手を無言で握りしめた、兵隊と同じ服裝をしてゐる記者から突然手を握られた相手はちょつと面喰らった顔付で記者を見つめてゐたが、從軍記者と判ると破顔一笑「毛唐は弱くて困るですよ」と敗走千里の英軍の不甲斐なさを慨嘆した、いままで自動車で

疾走 してゐたので、さほどに感じなかったが赤道下の落せ返すこの熱さはどうだ、いまさらのやうに進撃部隊のなみ／＼ならぬ勞苦が偲ばれるのだ、さらに前進すると再び長蛇のごときわが大縱列が停止してゐるのに出喰はした、ペラ州の邑都たる〇〇前面二十キロの大橋梁が敵によって爆破され昨夜來工兵隊の架橋作業を待ってゐるのだった、勇士らは國境突破以來激戰につゞく激戰で綿のごとく疲れた體をゴム林の葉蔭に涼をとってゐる、〇〇部隊長に挨拶する——

大陸戰線とは風土氣候、戰闘様式など何から何まで勝手が異ってゐるが、將兵は平氣でこれを克服し實によくやって呉れ感謝に堪へない

と眦ってゐる兵隊の上に感謝の眼を向けた

架橋 點に出てみるとみごとな橋は殆ど完成し昨夜來一睡もせず眞赤に眼をはらした工兵隊が必死の作業を急いでゐる、二時間ばかりで作業が終り記者は許されて眞ッ先に渡橋し〇〇目指して急いだ、對岸には架橋を待たず渡河した歩兵の大部隊が進撃してゐる〇〇に數十キロ、岩山が道路に迫って峡路にさしかゝると物凄いスコールに見舞はれた沛然たる雨足をすかしてみると遥か前方に一隊の自動車部隊が濡れ鼠となって走ってゐる、スコールを衝いて山峡を進む双輪部隊の姿はニュース映畫に納めたい風景だ

山峡 をぬけて間もなく目的地〇〇に着く、前日前面の濁水を強行渡河し、この地を占領した殊勳部隊はすでに敗敵を追及して前方〇〇キロの線に進出し、市街は三々五々復歸した住民の姿が街路にちらほらと動いてゐる、熱帯樹の間に瀟洒なバンガロー風の住宅が點々として箱のやうな街であるが、全市凉然に荒され惨憺たる光景を呈してゐる、兵舎の前庭には遺棄された夥しい大砲、トラック、彈藥などが散亂してゐる、住民の話ではこの地區には濠洲兵二千

印度 兵三千の守備軍がゐたがわが軍に前面の水流を渡河されるや忽ち潰亂、その敗走ぶりは眼際を極めたものらしい、やがて賑々たる大部隊を熱がせてわが大部隊が市街に進入し、そのまゝ記者は〇〇より實に千二百キロ、前線へ、前線へと前進して行ったいま目指す最前線のこの街に一番乘をしたのであるが、大東亞戰爭の巨大な歩武を進めつゝある祖國の力、皇軍の姿が闇の中にクローズアップされ、まんじりともせず第一線の一夜を明かしたのである

ラジオ

六日（火）

朝 六・三〇大東亞戰爭の世界史的意義（二）大串兎代夫▲七・三〇御製謹誦伊藤長四郎、引續き『國民の誓』山本英輔▲八・〇〇ニュース音樂（レコード）▲一〇・〇〇幼児の時間『シンネンオメデタウ』▲一〇・三〇職時家庭の時間永田秀次郎▲一一・三〇經濟通信

晝 正午ニュースに引續き合唱　皐聲會合唱團▲一・〇〇朗讀▲一・三〇職時家庭の時間▲四・三〇經濟通信五・五五（城）番組豫告

夜 六・〇〇少國民のシンブン、少國民軍歌　東京コドモ唱歌隊▲六・三〇話 音樂（レコード）豫備▲七・三〇國民に告ぐ▲八・〇〇軍事發表に引續き浪花節『維新の歌』三門博▲九・〇〇ニュース吹奏樂

第二 【夜の部】六・三〇コドモの新聞に引續き幼年童話李明伊▲七・二〇戰士の誓ひ▲七・三〇『戰況ニュースを聞いて』高鳳京▲七・五〇職時家庭歌謡指導玄山濟明▲八・〇〇『今日の太平洋』張德秀▲八・三〇合唱京城放送混聲合唱團▲八・四〇新講談『明治の大外交官』（二）洪木春▲九・三〇中等國語講座▲一〇・〇〇（東）戰時物語

歌はぬ勝利【111】

山中峯太郎【作】　高木　清【畫】

情（六）

公子は、渦まく感情に眩む思ひしながら、家へ歸らうとして、町へ入って來た。ひたく／＼と路を急いで來る途中なほも胸にこみあげてくるのは、

——お母さま。

と、呼びかけたい目あてが、烈しくみだれ動いて、急いで來た足ながが、いつしか動かなくなり、路ばたの板塀のふちを、うつむききり、トボ／＼と歩いてゐた。

——わたしの涙によごれてゐたきたないハンカチを、あのやうに抱きしめて帶のあひだへ入れ『これを、いたゞかせて……』と、切なく眉をしかめながら、願ってゐた、あの人の顔こそ、お母さまのあの顔ではないか、……生みのお母さまの顔ではない……。わたしにはお母さまが二人ゐる。

この亂れ動く氣もちを、何と静めようもなく、公子は、唇をかみしめかみしめ歩いて行った。

へ、胸のつかへる氣がする、どこの海のやうなところへ、ひろ／＼としてゐるところへ、出て行きたい。あてもなく急ぎながら、公子は、海をおもひ、隆のゐる逗子の海を思ひ出した。

——隆……互に知りあって氣もちのよかった隆さへも、今はもう嫌だ。『完全に自分のものにならないか』などと、結婚を望んできた男、もう見るのも嫌だ。

あらゆるものが、嫌になってくる氣がして、公子は、なほさら歩みを早めた。唇をきりながら、かうして歩いてゐるうちだけは、何とか紛れる氣がして、霜どけの路の上を、下駄のまゝで行くうちに、家並の端から、廣い所へ、ふと出た。

——戸山の原。

さうなのだった。すぐ向ふに省線電車のレールがあり、更に向ふへ廣く戸山の原が、ゆるやかな下り斜面になってゐる。公子は、ホッと感じがついた。

このまゝの氣もちでは、とても家へ歸りたくなかった。今までのお母さまの前へは、出て行けない氣がして、板塀のつきた狭い角を、あてもなく右の方へまがって行った。その途端に公子は、ふと立ちどまった。——お母さまも二人、あゝその では、お父さまも二人、一人は、どこの誰……。

烈しく胸にきた疑ひを、これも何と解きようはなく、公子は路ばたに立ちどまると、いきなり聲をあげて泣きだしたい氣がした——

わたしは、何といふお父さまの子だらう。

また小さかった時、何といふこともなく聲を自分で揺すぶって、あるだけの聲で泣きだしたことを公子は今、あり／＼と思ひ出した。

——どこかへ行ってしまひたい

さう思ふなり、スタ／＼と歩き出した。

——兩側に家が並んでゐるのさ

——原に誰もゐない……

葉の落ちてゐる櫟が、まるで枯木のやうに方々に立ち、そこいらに誰もゐないのが、假に氣にいった。

「あゝ……」

斜面に立ちどまると、目をまたついて、冬の空を振り仰いだ。しつとりと汗ばんでゐながら、風はなくて暖かい光が、體をつゝみこんでくれる。まぶしい太陽を公子は、その直射光を、なつかしく感じた。

——どこへも行きたくはない。ここにゐよう。

斜面を今度は登って行くと、櫟の根もとへ公子は、しづかに腰をおろした。下駄をぬぎすてゝ兩足を投げだし、胸をくみしめたきりすぐ前に枯れてゐる草をジーッと眺めてゐたが、まだ胸につかへてゐるのは、根の深い疑ひだった。

——わたしは誰の子だらう……

南支荒鷲勇士の生還記

大密林と死鬪

不屈の精神、遂に基地に歸還

【○○基地四日同盟】人跡未踏の密林に不時着、全員負傷を負ひながらも不撓不屈の精神でつひに活路を見出し○○基地まで辿りついたわが南支荒鷲勇士の生還記——話の主人公は昨冬廿五日わが陸軍航空部隊のラングーン第二回大空襲に參加、ラングーン市内軍事施設、發電所を炎上せしめる大戰果を擧げ、歸還の途中敵の集中攻撃を受け操縱不能となつた僚機を操りながらつひに泰領に不時着したわが陸鷲○○部隊宮脇中尉機の搭乘者宮脇幸一中尉(愛知縣)以下木下龍司准尉(茨城縣)吉原定次准尉(新潟縣)長内正巳軍曹(青森縣)岩淵武司軍曹(千葉縣)山本鶴二伍長(兵庫縣)篠田福治兵長(埼玉縣)だ

宮脇 機が僚機とともに三百機の大編隊をもつてラングーン上空に突進し熾烈な防禦砲火を冒して目標の軍事施設目がけて全彈投下、市内發電所の炎々と燃え上るをの確認して無事に任務終了したのは二十五日午後一時(日本時間以下同じ)頃だつた、爆撃終了直後敵高射砲の咆哮が杜絶すると同時に宮脇機は敵スピット・ファイアー戰鬪機十數機の集中攻擊の的となつた

先づ 前方から三機次に直上から三機が執拗に宮脇機目がけて襲ひかゝり木下准尉まづ負傷、續いて機主宮脇中尉、岩淵軍曹が背後および大腿部に負傷機體も前方のガラスが破壞、ガソリンタンクに敵彈命中、ガソリンがさかんに吹き出し機體内は濛々たる煙でいつぱいといふ狀態となつた

この 混亂の中でも同機は敵戰鬪機の間を縫つて友軍とゝもに歸還の途につきなほも喰ひさがつて來る敵スピット・ファイアー機一機を撃墜した、敵彈の命中で同發動機についた火は錐揉回して消し止めたが、ベンガル灣をわたつて○○の陸地上空に達した頃今度は燃料パイプをやられエンジンへゆく燃料が杜絶がちとなつた、宮脇中尉は〃どうせ自爆するならラングーン上空に飛戾つてもう一合戰交へて敵中に突込んで自爆してやらう〃と決意した、しかし燃料を許すと○時間以上飛行可能だ、これなら○○基地まで辿りつけると僚隊の後を追つてまた飛び續けた

しか しガソリン流失はますく甚しく已むを得ず泰領内へ不時着を決意、約十分間空中滑走をつゞけ二時四十分頃メクロン上空の竹林中に不時着した不時着地點はカンチャナブリーバンコック西北一三〇キロからメクロン河を遡ること北に約一五〇キロの密林地帶だ、幸ひ機體の大破はまぬかれたが機長以下全員何れも負傷しつゝも生命だけは安全なことを確めたので勵し合つて蜿蜒たる密林地帶を切り拔けて行かうと決意、宮脇中尉の指導で一人一食分の携帶食糧を○人で分けて出ることに決定、十日間は密林中の旅をつゞけることが出來ると見透しがついた

二十五日は手足の動くものが血まみれで協力、附近の樹枝を伐り落し擔架を作るのに適し飛行機の翼の下蔭を避いて重傷者の二名を運ぶ上に一夜を明かした、二十六日メクロン河の急流を發見、河に添うて降つたが、行けども人跡未踏の密林で野猪と猪が飛び出して來る二キロ位で遂に一歩も歩けなくなつた

その 日午後二時ごろ友軍の連絡機が爆音を轟かして不時着地點の上空に飛來した、地上で打振る日の丸を認めたのであらう、低空飛行を行ひ通信筒を落した、救援隊もすでに基地を出發したと記されてある、食糧包も投下してくれたが、無慘や五十メートルばかりの川を隔てた對岸に落下してしまつた

二十七日は飛行機の重要部分を始末してから二百メートルほど南下、作業に恰好な砂地の河原に出て竹をきさつて筏作りに專念した、作業の出來るのは宮脇中尉以下三名、腰の日本刀を引拔いて竹きりだ、廿八日、殘た朝から竹伐りだ、腹は減る、ガソリン罐を切つて鍋を作りこれで一きれのパンを粥につくり食べはじめる、急流には三尺位の大きな魚が泳いでゐるので空腹をかゝへて竹伐りの暇に竹槍で魚をとりはじめる

廿九日、住民が三名、斧で道を切り開いてやつて來た、これが兎にも角にも地上の人間の顏を見た最初だ、これで何とか

連絡 がくつと一生懸命手招きしたが、血だらけ、泥だらけの七人の姿を見てあわてゝ引返して行く、追ひかけたが、何しろ相手は密林になれた山男、こちらは足に負傷までしてゐるので、どうにも追ひつかず、遂に大事なお客樣を取逃した、しかし明日への希望は大いに增したわけだ

三十日、集つた竹を落下網の紐で組んで筏を作つたが午後一時頃漸く出來上つたとき、下流の方からがやがやと人の聲が聞えて來た、泰國警察官二名が住民十名を引連れ筏で救援に漕ぎのぼつて來たのだ、全く地獄に佛だ、つひに脫出の望みが明かになり七人は不自由の身體ながら思はず萬歲を叫んだ

住民 の親切は驚くほどだつた、持つて來た鍋で新しい米をかしぎ久し振りで空腹を充してくれた、しかし四日間苦勞して作つたわが勇士の筏は住民から落第點をつけられた、住民總がかりで夜の作り替へ、午後七時完成、上弦の月を頼りにメクロン河の急流を下る

翌三十一日も一日夜で下降を續ける、各地の部落の住民もバナナやザボンを呉れる、かくて三十一日夜メクロン河に沿ひ部落ギンシサワットに到着、給使こゝまで遡江して來てゐた友軍救援隊の船に會つた、久し振りにみる髭面の日本兵、その時の一行の喜びやうは想像にあまりある、こゝで初めて負傷の應急手當を受け船の中で密林から昇る元日の日の出を拜み全員七名が無事カンチャナブリー經由二日午後○○基地に歸つて來たのである

日章旗仰ぎ感淚

マニラ入城を語る武田醫師

【マニラ四日同盟】皇軍のマニラ入城によつて無事救出された在留邦人は三千三百名である、二十日間の監禁生活に憔悴し切つてゐたが、待ちに待つた皇軍の入城に感激し湯茶の接待や味噌汁の炊出しから市内の治安工作に活動を開始してゐる、在住二十五年間ドクトル武田の名で親しまれてゐる三井物產擴賣所醫師武田信夫氏(今治市出身)は日米英が交戰狀態に入つた九日有力者三百名と一緒にモンテイン・ロバー監獄に監禁され二日○○部隊の勇士達に救出され早速活躍してゐるが、皇軍入城の感激に慄へながら當時の模樣を次のやうに語つた

日米會談の遂行が、いよく險惡となつて、われく在留邦人はどうなるかと憂慮してゐたが八日のマニラ・ブレティン紙で日本航空隊がハワイ爆擊を敢行したことを知り直ちに隣組を通じて避難先を通知し合ひ日本人倶樂部、三井物產舍宅、大同貿易社宅の三ケ所に避難した、その日は何事もなく過ぎたが、九日になると巡邏隊が殺到して邦人の住宅を包圍し山本正金支店長を初め關田日本人會長、伊藤三井物產支店長など主だつた者三百名はマニラから卅キロ離れたモンテイン・ロバー監獄に收容された、この監獄は最近にできたもので綺麗ではあり食事も粗末ながら三度々々支給されたので大した苦痛はなかつたが、自由は全く束縛されるしまた皇軍はいつたなつたらマニラに入城するか分らぬし不安のうちにクリスマスも濟んで多分二十八日であつたと思ふが、突然『お前達をマニラへ歸すから一定の收容所に固まつてをれ』と巡邏隊長の申出ありその日にマニラに移され三井物產擴賣所、日本人小學校、大同貿易の三ケ所に收容された、この時まで軍隊はまだ市内に居たらしいが、やがて撤退した、われくの行動も幾らか自由になつて邦人達もやうやく落着きお產などがあつたので皆でそのお手傳ひをし名前も勝と名付け皇軍の戰勝を祈つたその皇軍も元日にはマニラまで十一キロの地點に迫り二日にはその一部が入城した、餘りに早い入城振りにわれく一同夢かとばかり喜び戰塵にまみれた日章旗を仰いで感淚にむせんだのであつた、皇軍は入城したが、在留邦人は統制をとるため收容された場所に固まり相互に無事を祝ひ合つてゐた、午後には主力部隊も入城し完全に占領したので大同貿易に收容された千六百名を除いた全部が解放され直ちに市内の治安工作に協力してゐるわけである

ビルマの人心不安

【リスボン四日同盟】ラングーン來電＝日本陸軍航空部隊のラングーン爆擊にビルマは人心漸く不安に陷り統治上に相當憂慮の兆候あり、ビルマ知事ドーマン・スメスは四日ビルマ國民に對する特別布告を發表、その一致團結を要望した、要旨左の通り

今や全ビルマは一大試煉の時に際會してゐる、しかしこれは同時にビルマ國民がもつとも苛烈なる狀況のもとに斷乎たる決意と團結の實を示すべき機會であり、住民の結束を期待する

三國志

(赤壁の卷) 吉川英治(作) 矢野橋村(畫) 【695】

三國志梗概 遡ること千七百餘年、廣大な支那の天地は割據する群雄の野望に日夜戰亂の脅威に曝され、その頃魏の曹操は天下平定の野望を秘めて、冀州、荊州を制し旭日の勢ひ以つて天下を窺つてゐた。一方呉の孫權は多數の兵馬軍船を有し曹操に抗してゐたが、はからずも漢の玄孫である劉備玄德と同盟を結び、長期戰が展開されるに至つた。玄德は又一代の賢人諸葛孔明を軍師に仰ぎ、漢室復興を圖り、曹操、孫權の武力を殺ぐため孔明と謀り、擧ら謀略を以つて兩者の兵力を一擧に殲滅せんと孔明を呉に使さした。

鳳雛巢を出づ (五)

龐統の言は、たしかに曹操の胸中の秘を射たものであつた。病人の續出は、いま曹軍の惱みであつた。その對策、原因について軍中やかましい問題となつてゐる。

『どうしたらよいでせう。又、何かよい方法はありませんか。願はくば御教示ありたいが』

曹操は初め、驚きもし、狼狽氣味でもあつたが、つひに打割つてかう云つた。

龐統は、さもあらんと、うなづき顏に、

『布陣兵法の妙は、水も洩らさぬ御配備ですが、惜いかな、たゞ一つ缺けてゐることがある。原因はそれです』

『布陣と病人の續出とに、何か關聯がありますか』

『あります。大いにあります。恐らく一兵たりと病人はなくなるでせう』

『謹んでお教へに從はう。多くの醫者も、藥は投じてもその原因に至つては、たゞ風土の異るためといふので、とんと解らない』

『北兵中國の兵は、みな水に馴れず、いま大江に船を浮かべ、久しく土を踏まず、風浪雨荒のたび毎に、氣を傷ひ身を損らす。ために食すゝまず、血循ること遲く、凝つて病となる——これを治すには一兵ことごとく上げて土に親しますに如くはありませんが、軍船一日も人を缺くべからずです。故に一策をほどこし、布陣を改めるの要ありといふものです。まづ大小の船をのこらず風浪少き灣口のうちに集結させ、船艦の巨きさに準じて、これを縱横に組み、大艦三十列、中船五十列、小船はその便に隱し、船と船との首尾には、環の鎖をもつて固くこれを繫ぎ、また大綱をもつて連ね、交互に渡り板を架け渡しなどして、その上を自由に往來なせば、諸船の人々、馬をすら、平地を行くが如く意の儘に歩けませう。しかも大風颶浪の荒日でも、諸船の動搖は至つて少く、また戰…兵は平易に選び、兵氣は輕快に戰けますから、自然病に臥すものはなくなりませう』

『なるほど、先生の大說、思ひあたること少くありません』

と、曹操は席を下つて謝した。

龐統はさり氣なく、

『いや、それも私だけの愚見かもしれません。よく原因を探究し、さらに賢考なされたがよい。お味方に病者の多いなどはまだ以て、呉のはうでは覺らぬこと。少しも早く適當な御處置を執りおかれたら、かならず他日呉を打破ることができませう』

『さうだ、このことが敵へもれては……』

と、曹操も急を要すと思つたか、たちまち彼の言を容れて次の日、自身中軍から埠頭へ出ると諸將を呼んで、多くの鍛冶をあつめ、大釘など夜を日につゞいで無數に製らせた。

龐統は、悠々客となりながら、その樣子を觀て、內心ほくそ笑んでゐたが、一日、曹操と打解けて、また軍事を談じたとき、あらためてかう云つた。

『多年の宿志を達して、いまこそ私は名君にめぐり逢つたこゝちがしてゐます。粉骨碎身、この上にも不才を傾けて忠節を誓つてをります。ひそかに思ふに、呉の諸將は、みな周瑜に心から服してゐるのは少いかに考へられます。周都督をうらんで、機もあればと、叛り思を目論むもの、主なる大將だけでも、五指に餘ります。それがしが參つて三寸不爛の舌をふるひ、彼等を說かば、忽ち、旗を反して丞相の下へ降つて來ませう。然る後、周瑜を生け擒り、次いで玄德を平げることが急務です。——呉も呉ですが、玄德こそは侮れない敵とお考へにはなりませんか』

そのことばは、大いに曹操の肯綮に中つたらしい。彼は、龐統がさう云ひ出したのを幸ひに、

『いちど呉へ回つて、同志を語らひ、ひそかに計を施して給はらぬか。もし成功なせば、貴下を三公に封ずるであらう』

と、云つた。